

---

---

## 第2章

### 葉山町における高齢者の現状

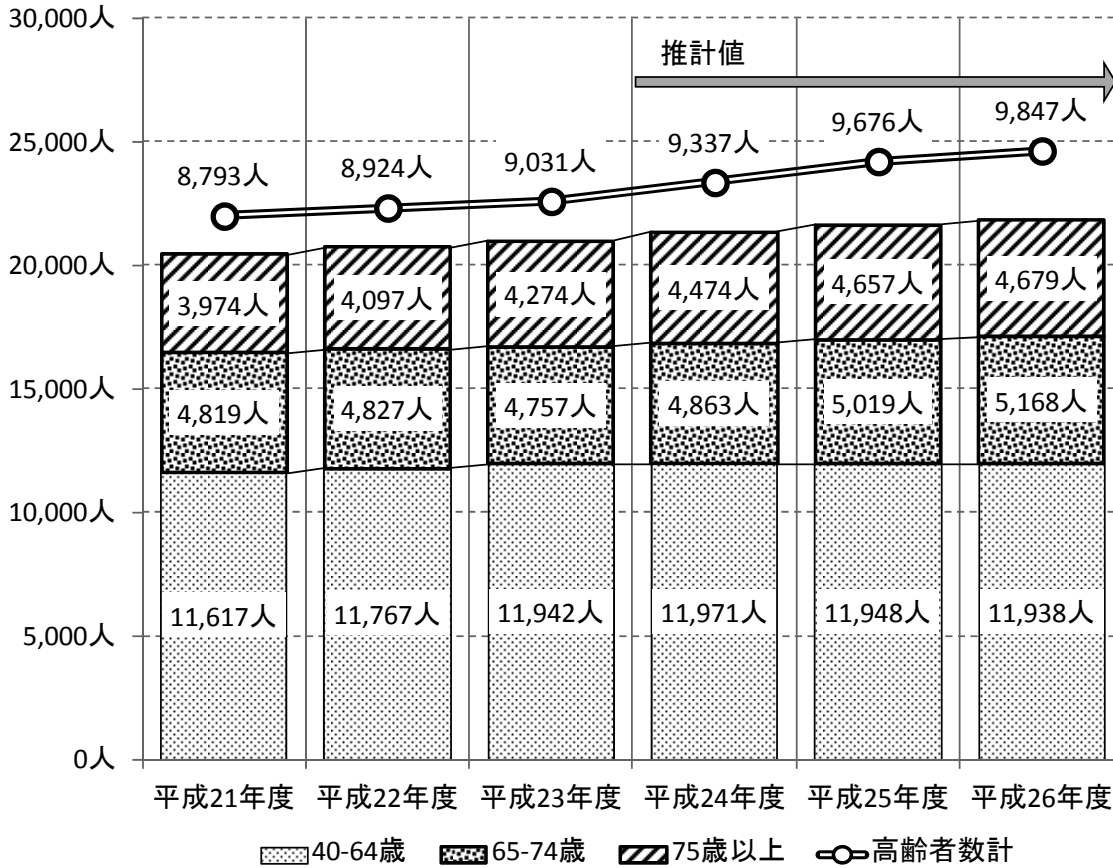
---

---



# 1 高齢者数等の推移

## (1) 高齢者人口等の推移及び推計



※住民基本台帳 各年10月1日(平成23年のみ7月1日データで代替)

※人口推計はコーホート変化率法により、男女1歳階級別に推計しています。

※推計値については小数点第1位を四捨五入して表示しているため、見た目の数字の合算が表示されている合算値と一致しない場合があります。

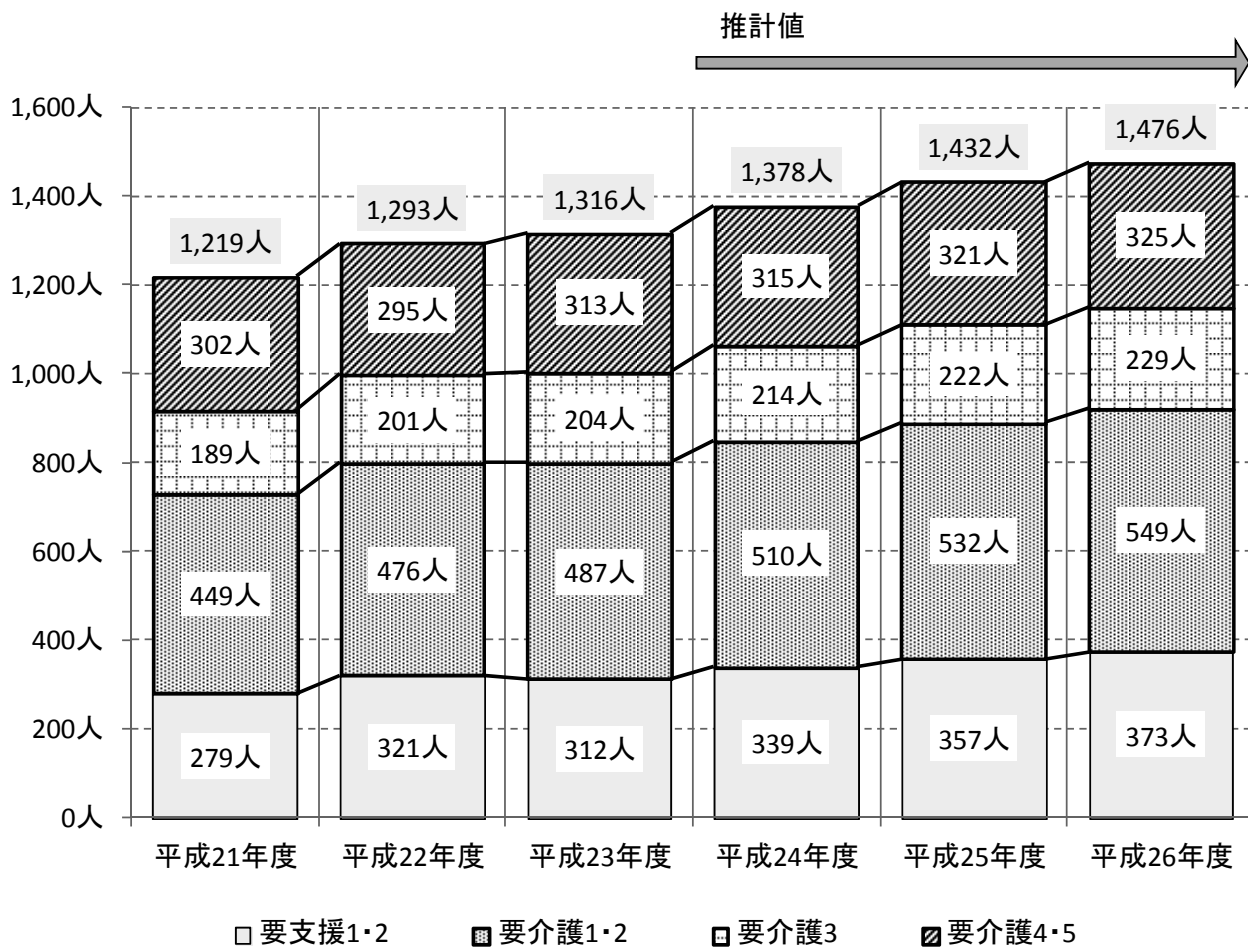
高齢者数の推移をみると、平成21年度から平成23年度にかけて増加傾向にあるため、平成24年度以降も高齢者数は増加するものと推計されます。

平成23年度の高齢者数9,031人に対して、本計画の最終年度である平成26年度には、9,847人と約800人の増加が見込まれます。

「65-74歳」の前期高齢者と「75歳以上」の後期高齢者の伸び率はほぼ同水準で、ともに平成26年度には平成23年度に対して400人程度増加となっています。

一方、介護保険制度を支える「40-64歳」の第2号被保険者については、平成26年度にかけて、若干ながら減少していくものと推計されます。

(2) 要支援・要介護認定者数の推移及び推計



※平成 21・22 年は年報、平成 23 年は月報(7 月分)のデータを使用

※平成 21～23 年の 40 歳以上人口に占める認定者の割合の平均値を算出し、平成 24 年以降、40 歳以上人口に占める割合は一定と仮定して、推計人口に乗じることで認定者数の推計を行っています。

要支援・要介護認定者数の推移をみると、平成 21 年度から平成 23 年度にかけて 40 歳以上人口が増加傾向にあります。

要支援・要介護認定者数の推計値は、40 歳以上人口に占める認定者の割合に基づいて推計しているため、平成 24 年度以降も認定者数は増加するものと推計されます。

「要支援1・2」、「要介護1・2」はそれぞれ平成 23 年度に対して、平成 26 年度には 60 人程度の増加が見込まれます。

## (3) 要支援・要介護認定者数の前回計画値との実績値との比較

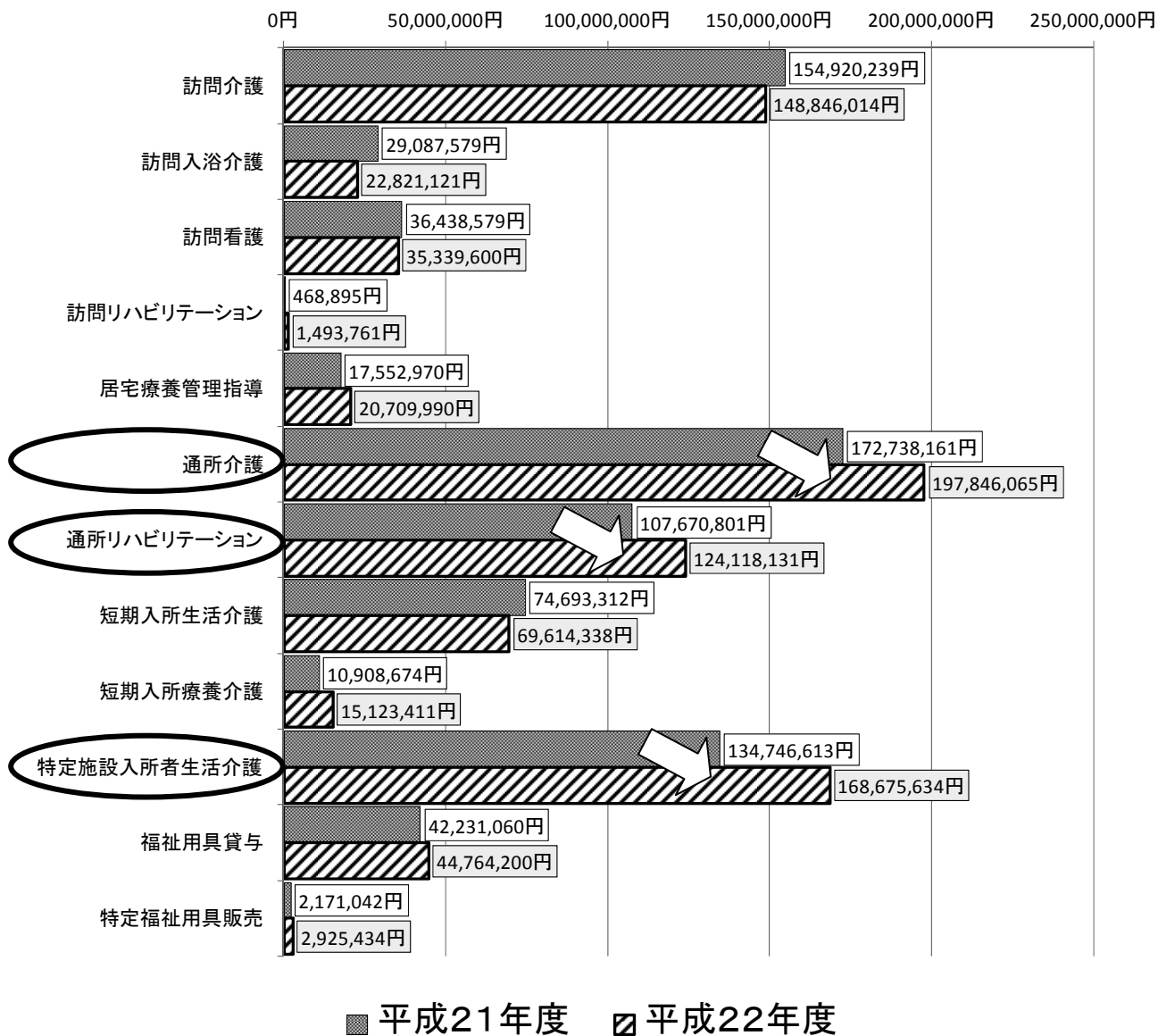
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	
要支援・要介護等認定者計		実績	1,219人	1,293人	1,316人
		計画	1,235人	1,291人	1,353人
		計画との差 (実績－計画)	-16人	2人	-37人
介護度別	要支援1	実績	171人	185人	187人
		計画	175人	178人	183人
		計画との差 (実績－計画)	-4人	7人	4人
	要支援2	実績	108人	136人	125人
		計画	88人	91人	93人
		計画との差 (実績－計画)	20人	45人	32人
	要介護1	実績	246人	261人	276人
		計画	245人	251人	256人
		計画との差 (実績－計画)	1人	10人	20人
	要介護2	実績	203人	215人	211人
		計画	225人	238人	256人
		計画との差 (実績－計画)	-22人	-23人	-45人
	要介護3	実績	189人	201人	204人
		計画	195人	207人	219人
		計画との差 (実績－計画)	-6人	-6人	-15人
	要介護4	実績	157人	142人	156人
		計画	156人	166人	176人
		計画との差 (実績－計画)	1人	-24人	-20人
	要介護5	実績	145人	153人	157人
		計画	151人	160人	170人
		計画との差 (実績－計画)	-6人	-7人	-13人

平成21年～23年度の認定者数について、第4期計画における計画値との差異を検証すると、要支援者(とくに要支援2)及び要介護1の者については計画の想定以上に認定者が出現し、要介護2以上の者については計画の想定よりも認定者が少なくなっている傾向が伺えます。

## 2 給付費の推移から見た介護保険サービスの利用状況

### (1) 介護給付サービスの利用状況

#### 1) 居宅サービス

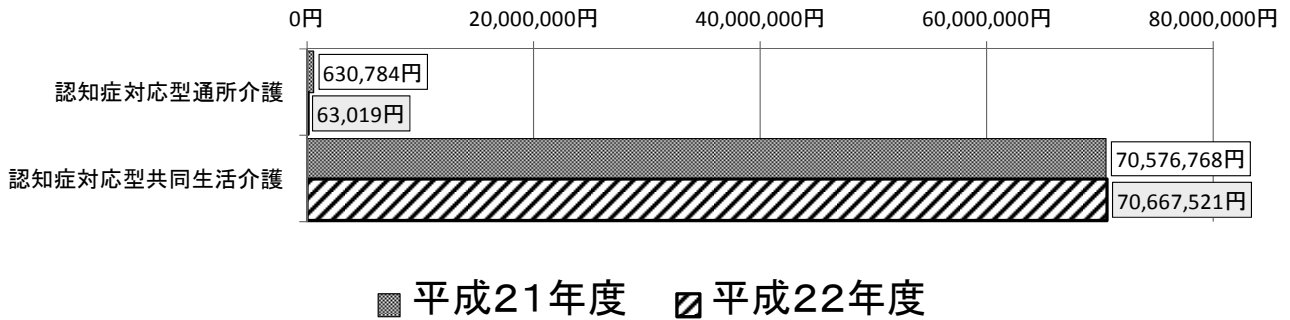


介護給付サービスのうち、居宅サービスについて給付費の推移をみると、多くのサービスは平成21～22年度にかけて大きな変化はありませんでしたが、通所介護と通所リハビリテーションの通所系サービスと特定施設入所者生活介護では給付費が大きく増大しています。



通所系のサービスを中心に利用が増大しています。

2)地域密着型サービス

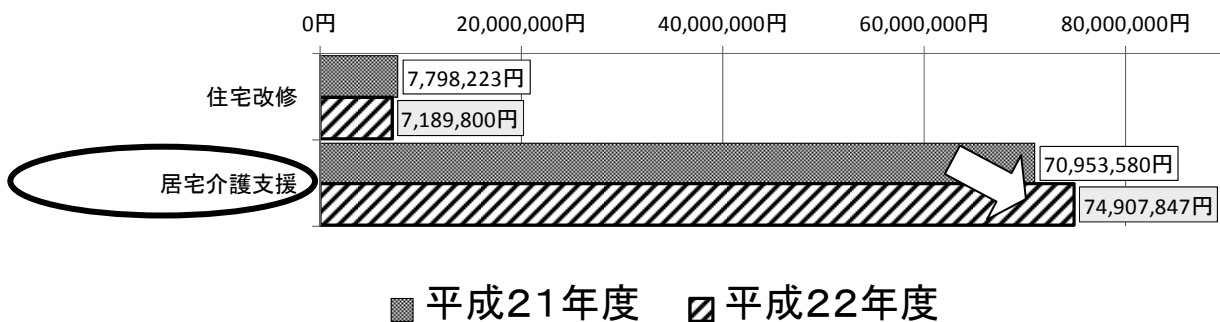


介護給付サービスのうち、地域密着型サービスについて給付費の推移をみると、いずれのサービスも大きな増減は見られませんでした。



地域密着型サービスについては、利用に大きな変化は見られません。

3)その他サービス

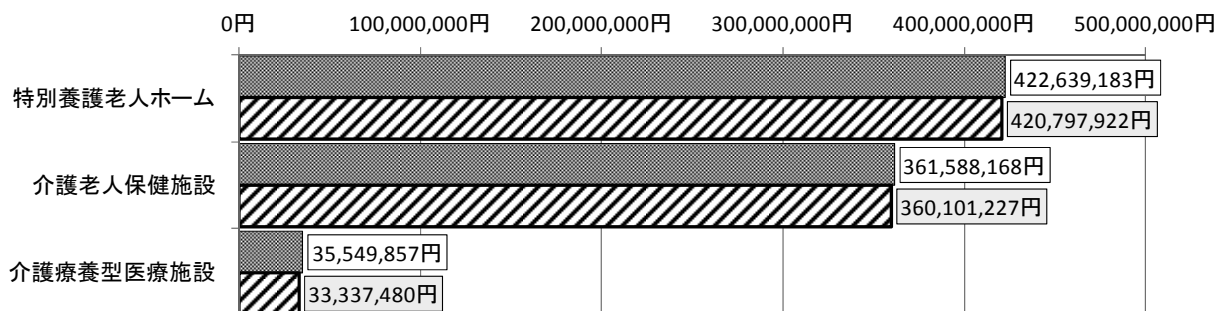


介護給付サービスのうち、その他サービスについて給付費の推移をみると、居宅介護支援は平成21～22年度にかけてやや利用が増大しています。



居宅介護支援の利用が増大しています。

#### 4)施設サービス



■ 平成21年度    ▨ 平成22年度

介護給付サービスのうち、施設サービスについて給付費の推移をみると、いずれのサービスも平成21～22年度にかけて利用に大きな変化は見られませんでした。

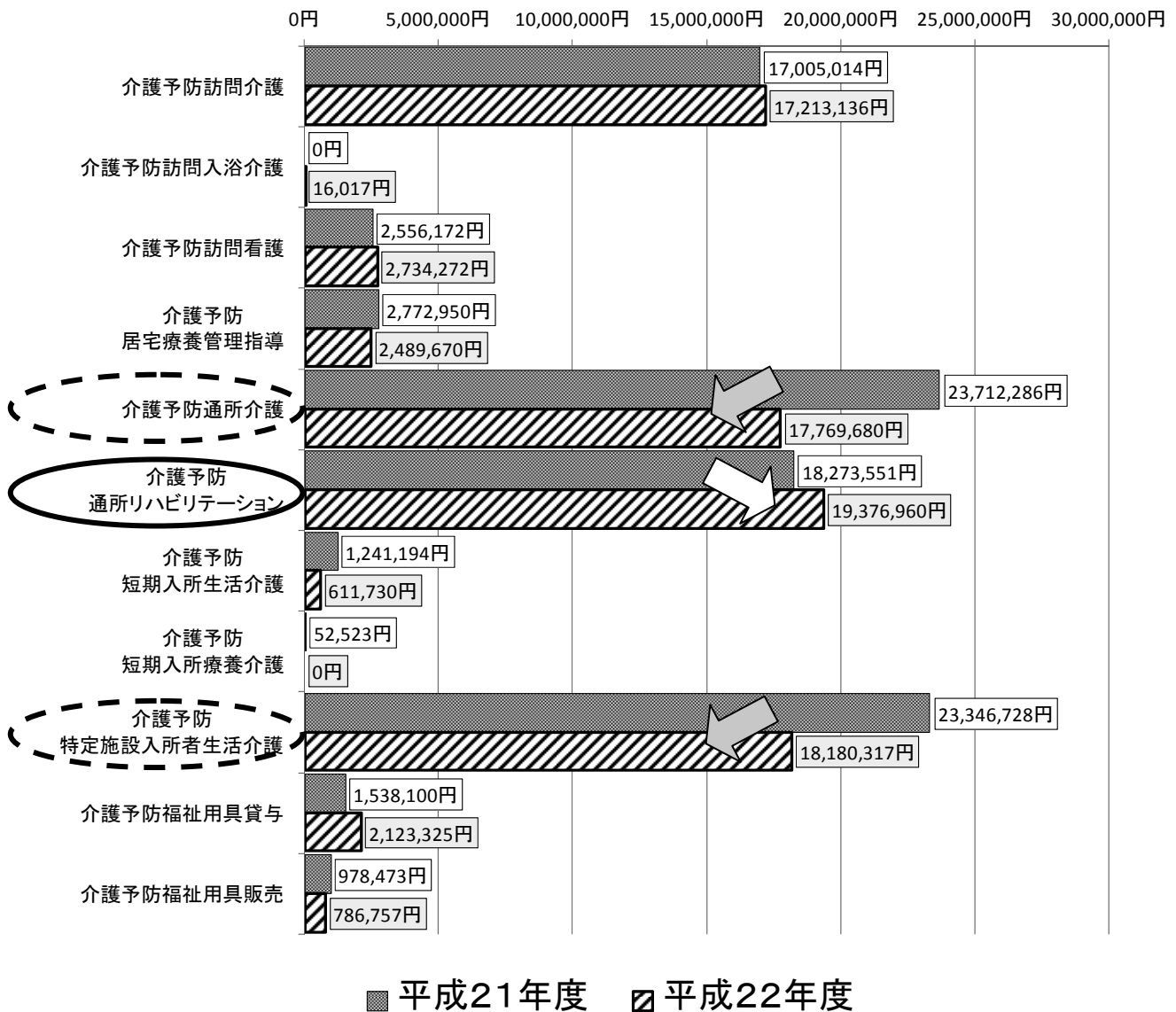


介護給付の施設サービスについては利用状況に大きな変化は見られません。



(2) 予防給付サービスの利用状況

1) 介護予防サービス

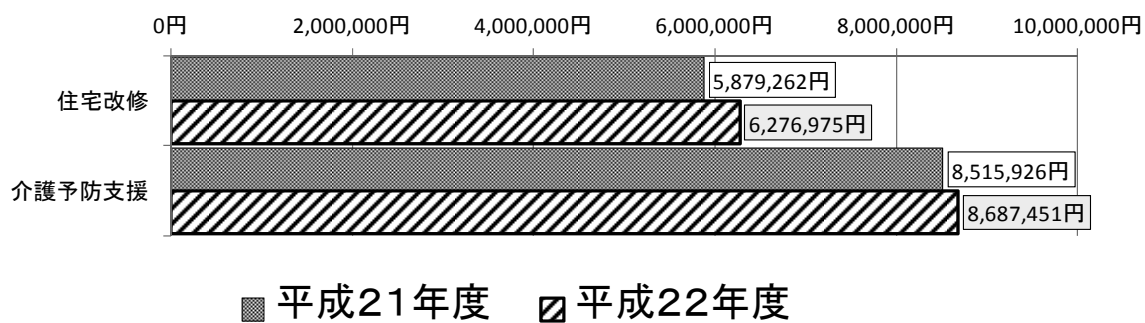


予防給付サービスのうち、介護予防サービスについて給付費の推移をみると、介護予防通所介護及び介護予防特定施設入所者生活介護については平成 21～22 年度にかけて利用が減少しているものの、介護予防通所リハビリテーションについては利用が増大しています。



介護予防通所介護及び介護予防特定施設入所者生活介護については利用が減少しているものの、介護予防通所リハビリテーションの利用が増加しています。

## 2)その他サービス



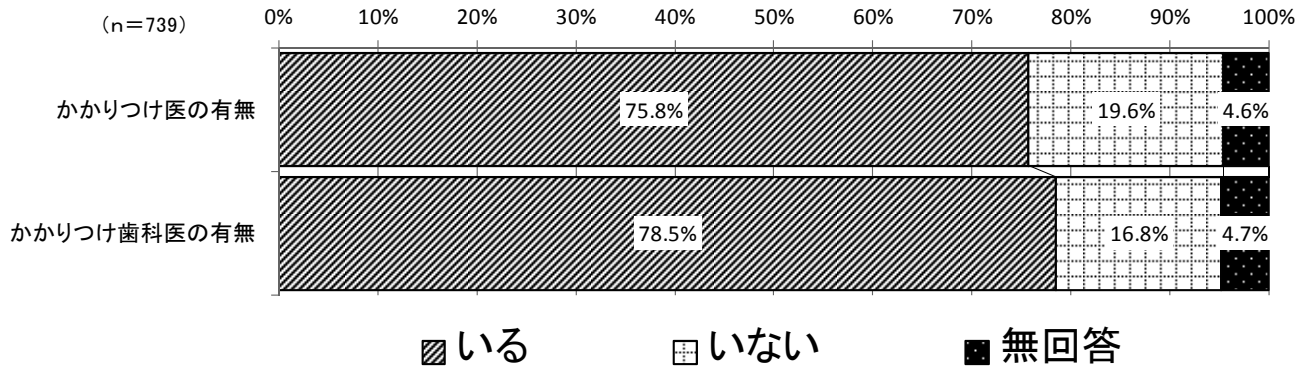
予防給付サービスのうち、その他サービスについて給付費の推移をみると、介護予防支援の利用は増えているもののほぼ横ばいで推移しています。



介護予防支援の利用はほぼ横ばいで推移しています。

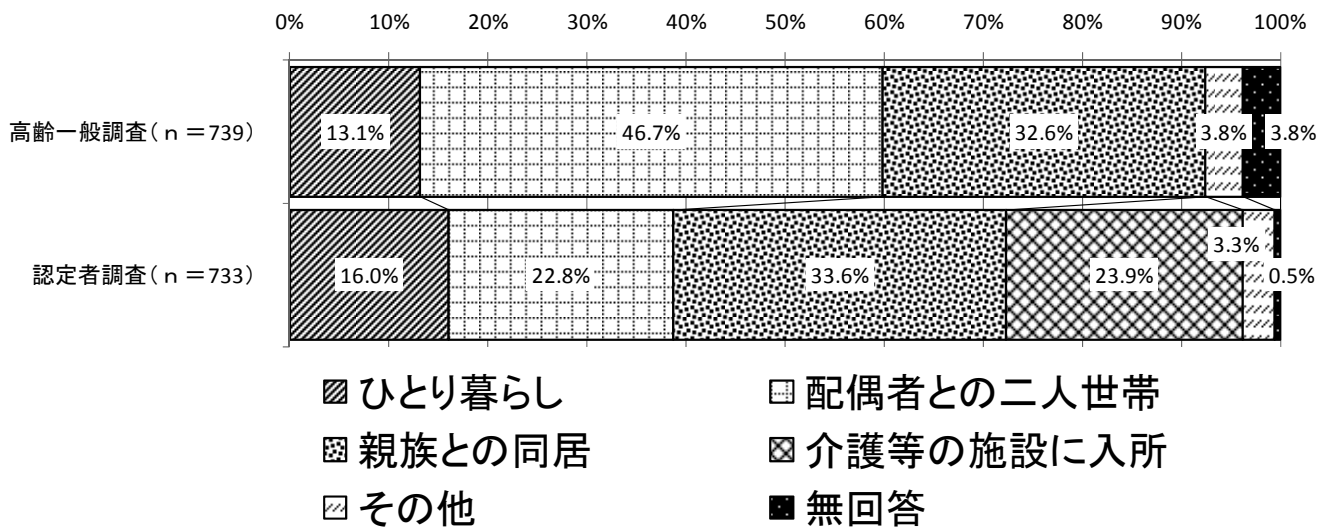
### 3 アンケート調査結果のポイント

#### (1) かかりつけ医・かかりつけ歯科医の有無（高齢一般のみ）



かかりつけ医・かかりつけ歯科医ともに 75%以上が「いる」としており、定期的に医師または歯科医による診察を受けていると考えられます。

#### (2) 現在の暮らし方



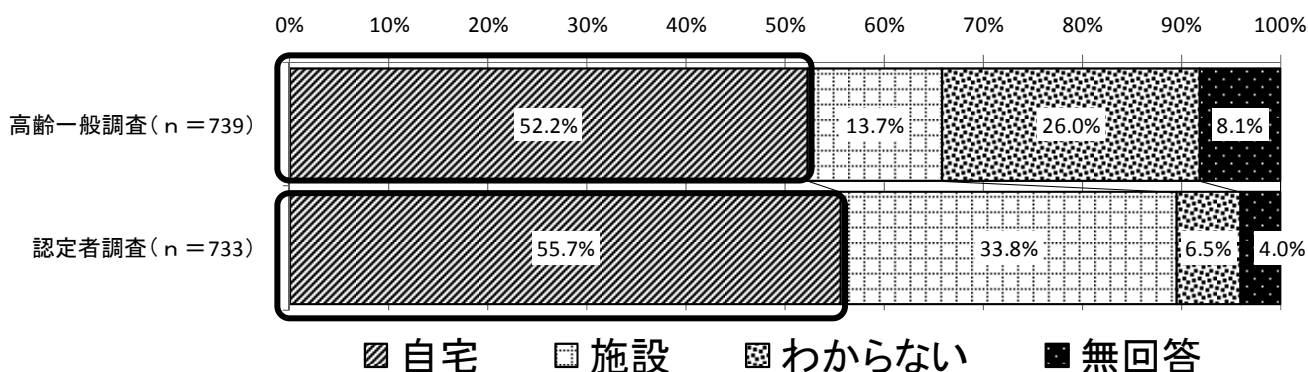
現在の家族構成をみると、高齢一般では 13.1%が「ひとり暮らし」で、46.7%が「配偶者との二世帯」となっています。認定者では 16.0%が「ひとり暮らし」で、高齢一般に比べ「配偶者との二世帯」の占める割合が低くなった分、「介護等の施設に入所」が 23.9%となっています。

配偶者との二世帯以外の家族構成は高齢一般と認定者で大きな差は見られないことから、配偶者と二人暮らしをしている場合、健康状態が悪化し、介護等が必要になると、施設系のサービスを利用する可能性が高くなると考えられます。



配偶者との二世帯は健康状態が悪化し、介護が必要になった場合、介護等の施設を利用する可能性が高いと思われます。

### (3) 希望する介護形態



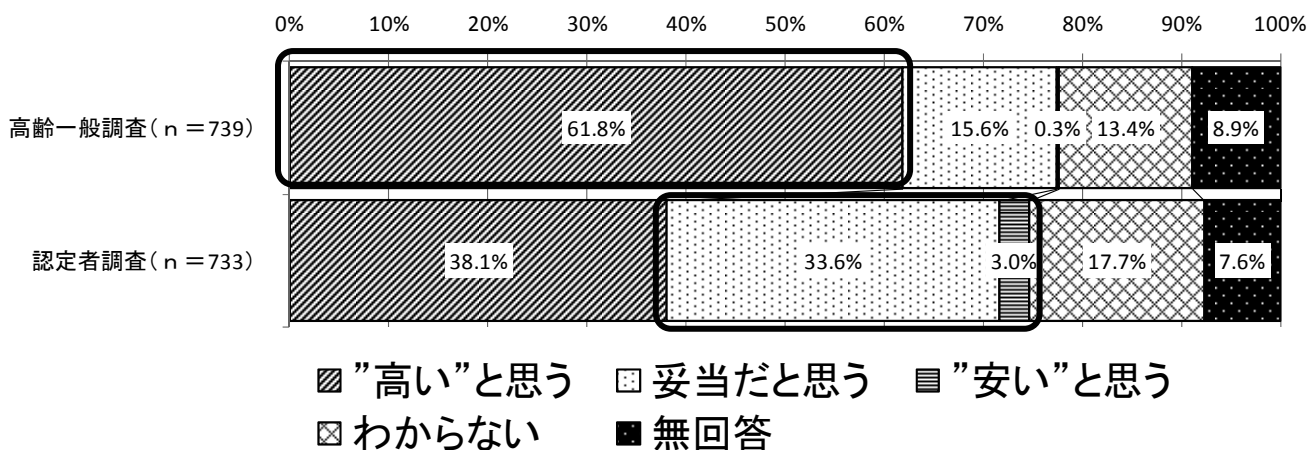
今後介護を受けたい場所についてみると、高齢一般(52.2%)、認定者(55.7%)ともに「自宅」を希望する回答が多く、在宅介護のニーズが高くなっています。

一方、認定者では高齢一般に比べ「施設」を希望する回答も 33.8%と高く、実際に要支援・要介護認定を受けると施設サービスの利用を検討する人の割合が高くなるものと思われます。



要支援・要介護認定の有無にかかわらず、在宅介護への希望が高くなっています。

### (4) 介護保険料の負担感

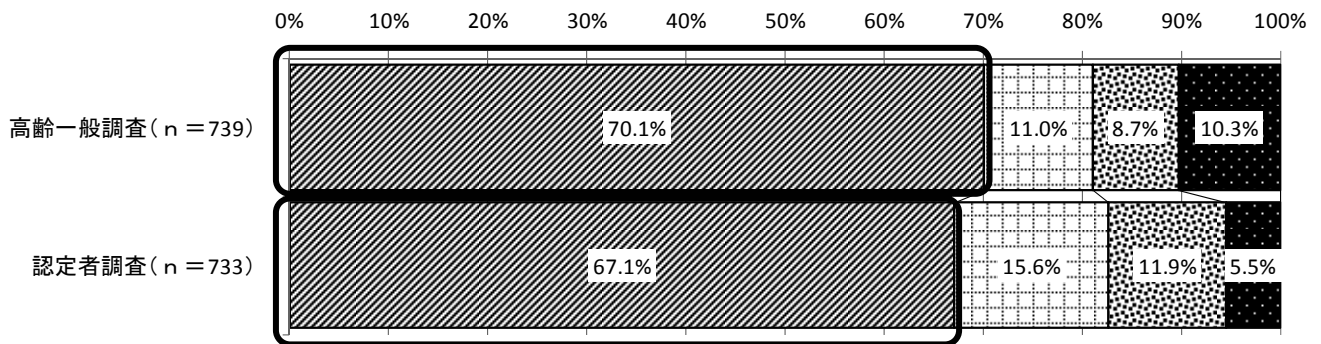


介護保険料の負担感についてみると、高齢一般では「“高い”と思う」(「高いと思う」、「やや高いと思う」)という回答が 61.8%と多くなっていますが、認定者では「妥当だと思う」が 33.6%、「“安い”と思う」(「安いと思う」、「やや安いと思う」)という回答が 3.0%と、高齢一般に比べ介護保険料に対して妥当と判断する回答が多くなっています。



実際に介護保険サービスを利用する認定者では、介護保険サービスを利用していない高齢一般に比べ、介護保険料を妥当と評価する人が多く、サービスの利用に対する費用対効果という面では肯定的に捉えられています。

(5) 介護保険料とサービスのバランス



- ▨ 保険料は上げるべきではない
- ▤ サービス提供のための保険料上昇はやむを得ない
- ▧ わからない
- 無回答

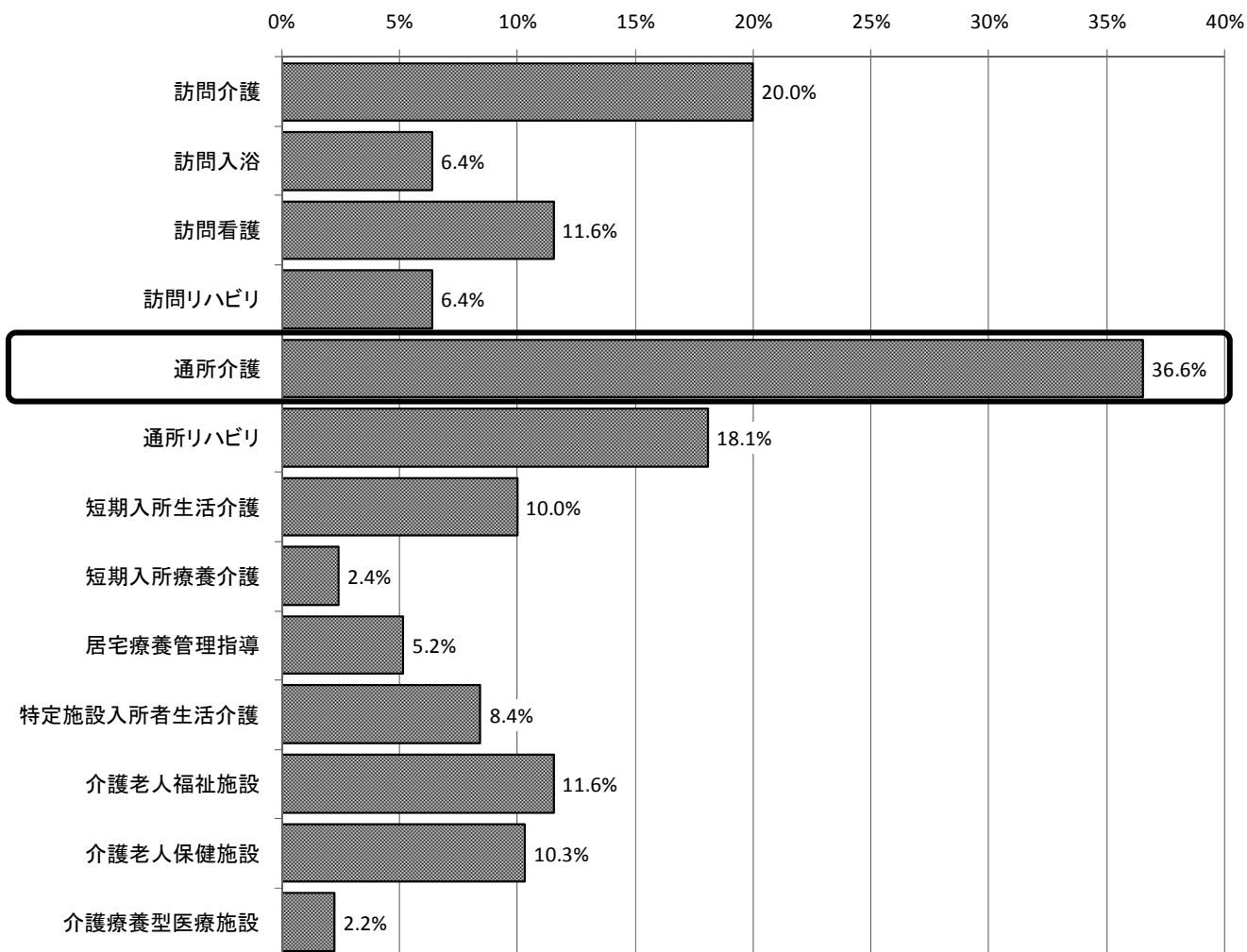
高齢者の保険料負担と介護保険サービスの充実とのバランスについて聞いたところ、高齢一般、認定者ともに、「保険料を上げるべきではない」という回答が7割前後と多数を占めています。



介護保険サービスの充実を図るために高齢者の保険料負担を増大させることに対しては高齢一般、認定者ともに否定的に捉えています。

## (6) 現在利用している介護保険サービス

※介護保険サービス利用者に限定



■ 認定者調査 (n = 580)

現在介護保険サービスを利用しているサービス利用者に対して、利用している介護保険サービスについて聞いたところ、「通所介護」が 36.6%と他のサービスに比べ利用が多くなっています。

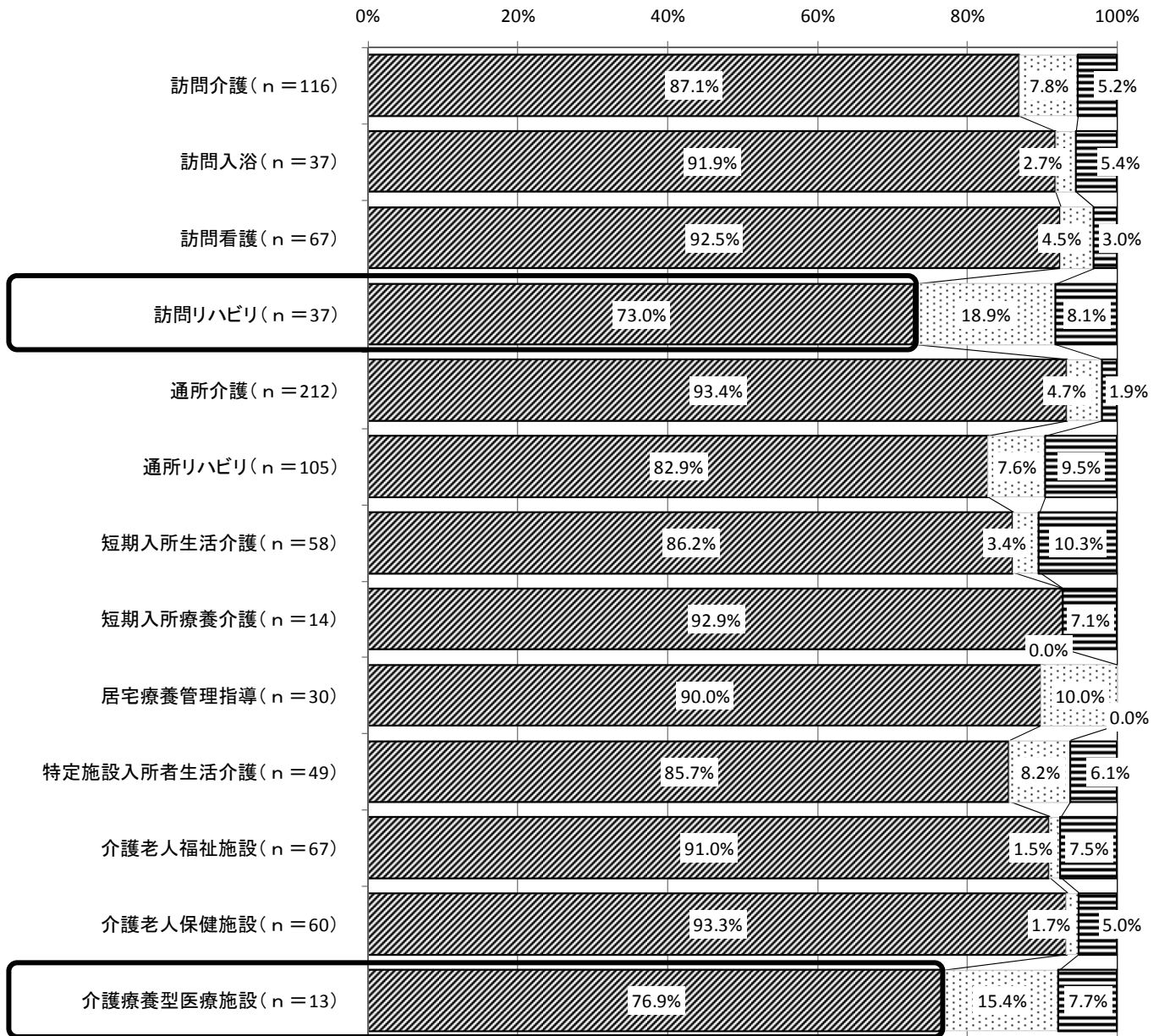
ついで「訪問介護」が 20.0%、「通所リハビリ」が 18.1%となっています。



介護保険サービス利用者の中では通所介護の利用が多くなっています。

(7) 介護保険サービスの満足度

※各介護保険サービス利用者に限定



■ ”満足”    ▨ ”どちらともいえない”    □ ”不満”

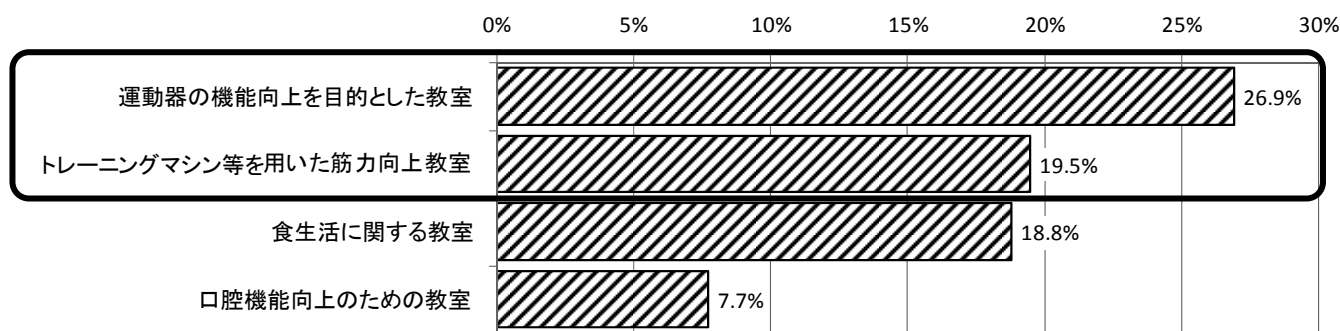
利用している介護保険サービスごとに満足度について聞くと、いずれのサービス利用者も“満足”（「満足している」、「ある程度満足している」）という回答が多くなっています。

“満足”という回答が他のサービスに比べるとやや少ないものは、【訪問リハビリ】(73.0%)と【介護療養型医療施設】(76.9%)となりますが、それでも満足度は7割を超えています。



介護保険サービス利用者の利用しているサービスに対する満足度は高くなっています。

### (8) 希望する介護予防サービス（高齢一般のみ）



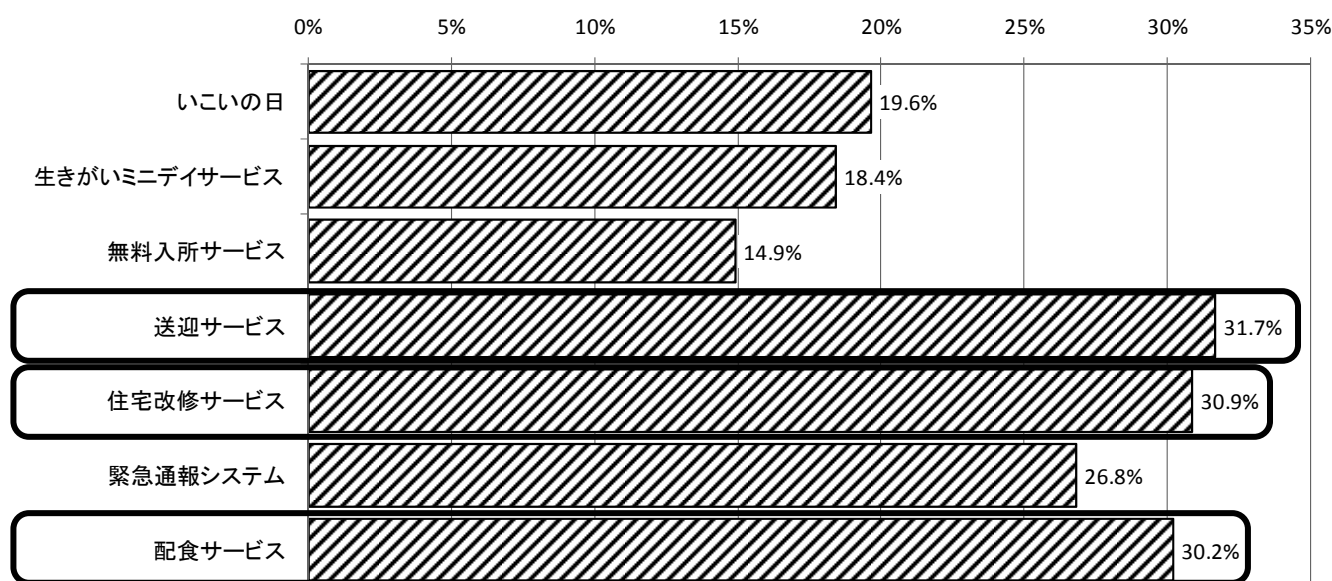
☑ 高齢一般調査 (n = 739)

高齢一般調査において、介護予防のために受けてみたいサービスについて聞いたところ、「運動器の機能向上を目的とした教室」が 26.9%で最も多く、ついで「トレーニングマシン等を用いた筋力向上教室」が 19.5%と、体力づくりにつながるサービスに対する回答が多くなっています。



運動器の機能向上や筋力向上など、体力づくりに関わるサービスに対するニーズが高くなっています。

### (9) 今後利用したい高齢者福祉サービス



☑ 高齢一般調査 (n = 739)

今後利用したい（現在利用中も含む）高齢者福祉サービスについて聞いたところ、「送迎サービス」（31.7%）、「住宅改修サービス」（30.9%）、「配食サービス」（30.2%）などへの回答がいずれも3割以上を占めています



高齢者福祉サービスとしては、送迎、住宅改修、配食のニーズが高くなっています。